

令和5年宇治田原町議会活性化特別委員会

令和5年3月10日

午前11時10分開議

議 事 日 程

日程第1 ハートウォーミング自治体議会Webサミットについて

日程第2 その他

1. 出席委員

|      |     |        |    |
|------|-----|--------|----|
| 委員長  | 3番  | 馬場 哉   | 委員 |
| 副委員長 | 7番  | 藤本 英樹  | 委員 |
|      | 1番  | 山内 実貴子 | 委員 |
|      | 2番  | 榎木 憲法  | 委員 |
|      | 4番  | 森山 高広  | 委員 |
|      | 5番  | 山本 精   | 委員 |
|      | 6番  | 宇佐美 まり | 委員 |
|      | 8番  | 今西 利行  | 委員 |
|      | 9番  | 上野 雅央  | 委員 |
|      | 10番 | 原田 周一  | 委員 |
|      | 12番 | 浅田 晃弘  | 委員 |

1. 欠席委員 なし

1. 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

|        |         |
|--------|---------|
| 事務局 長  | 矢野 里志 君 |
| 庶務 係 長 | 重富 康宏 君 |

---

開 会 午前11時10分

○委員長（馬場 哉） それでは皆さん、ご苦労さまでございます。

予算特別委員会に引き続き、本日は議会活性化特別委員会を招集いたしましたところ、委員の皆様にはご出席をいただき誠にありがとうございます。

本日は、2月14日に開催をいたしました「ハートウォーミング自治体議会Webサミット」について協議いたしたいと思います。

本日の委員会において、不適切な発言等がありました場合には、委員長において精査を行うことといたします。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○委員長（馬場 哉） ありがとうございます。

ただいまの出席委員数は11名でございます。定足数に達しておりますので、直ちに本日の議会活性化特別委員会を開きます。

会議は、お手元に配付しております会議日程及び資料等により進めさせていただきます。

それでは、これより議事に入ります。

日程第1、ハートウォーミング自治体議会Webサミットについてを議題といたします。

それでは、私のほうから説明をいたします。

資料の2つ目をご覧ください。それから、資料の1ページ、資料の2ページ、資料の3ページ、それから新聞記事等々の4ページ、5ページをご覧くださいと思います。

記事がたくさんありますので、各自、ご高覧いただくとして、ちょっとかいつまんで私のほうから報告の部分で読ませていただいて、報告に代えたいと思います。

当日は2月14日午前10時より、昨年参加いただきました兵庫県神河町議会、京都府大山崎町議会、それから、本町議会に加え、新たに兵庫県市川町議会、沖縄県南城市議会が加わっていただきまして、5市町によるハートの自治体を標榜する議会サミットをウェブ会議形式で、議会活性化特別委員会委員長の進行のもと、開催をいたしました。

開会では、本町議会の浅田議長がサミットへの参加のお礼、本町の概要の紹介、それから、将来は一堂に会したハートのまちサミットの開催に期待している等のご挨拶を頂戴したところでございます。

それから、それ以降は特産品の紹介を各議会から行っていただきまして、この会議の主なテーマの一つである、参加自治体によるハートウォーミングな施策の紹介のコーナ

ーへと入っていったところでございます。

沖縄県の南城市議会からは、「は・あ・と・の・ま・ち」をコンセプトに、まちづくりの理念と基本計画に市民との協働による町の未来像の実現のため、ハートの多彩な施策メニューの具現化が進行中であることが紹介をされました。

神河町議会からは、「ハートがふれあう神河」をキーワードに住民自治はもちろんのこと、観光PRや健康寿命を延ばす「かみかわハート体操」に取り組んでいることなどが紹介をされました。

市川町議会からは、町の未来を担う子どもたちの夢をかなえるため、町の花であるヒマワリの趣旨とメッセージを添えた風船を飛ばす「夢ふうせんプロジェクト」をYouTube動画で紹介をされました。

大山崎町議会からは、京都府と連携をし、次世代を担う起業家や企業の人材育成を行うイノベーション施設「アート&テクノロジー・ヴィレッジ」の整備をすすめていることを紹介されました。

本議会からは、山内副議長から、ふるさと納税の寄附を活用した子どもたちの育成についてを紹介させていただきました。

今回、参加をいただいたハートを標榜する自治体の協力連携については、議長会談の中で本町の浅田議長より、児童生徒の交流や自治体の防災協定など、できる連携を模索していこうとの提案があり、議会としての情報交換や行政の連携についても協力をしていきたいとの応答がご参加いただいた議長様からあったところでございます。

自治体連携に向けて、議会の役割として参加したそれぞれの議会が行政に働きかけを行うことを、議長会談の中でおおむね了承され、具体的に目標年度についても考えていってはどうかという話も議長会談の中で出てきたところでございます。

結論というふうな形になりますけれども、地理的に防災協定は難しい面もあるんですけれども、南城市さんが海底火山による軽石漂着の除去費用について、本町のふるさと納税で協力した事例もあり、困っているときはお互い様の発想の協力もいろいろ考えられるかと思います。また、それぞれの自治体がハートフルをテーマに、子どもたちの育成にも力を入れているという共通施策がありますので、今後も企画アイデアなど情報交換の場として、このWebサミットを続けていけばどうかというふうに考えます。

5市町連携の「ハートのまち」が理想ではございますけれども、できる箇所から自治体同士の連携など柔軟に考えたいものでございます。

最後に、本町行政に対しても、この議会として、この自治体連携について働きかけを

行うタイミングではないかというふうに考えまして、この報告書に代えさせていただきたいと思います。

以下は、それぞれの議長のお話であるとか、それから新聞記事を、掲載を資料としてつけておりますので、後でご覧いただいたらと思います。

以上で私のほうから、報告というか説明に代えさせていただきます。

この件につきまして、質疑ございませんでしょうか。榎木委員。

○委員（榎木憲法） ハートサミットのやり方のことでもいいですか。

○委員長（馬場 哉） どうぞ、何でも。

○委員（榎木憲法） 質問事項を前もって相手方に届けておくというようなことをやったほうがいいんじゃないかなという気がしたんです。というのは、こんなことを聞いて、相手側が暫時休憩しないと、調べられんような状態になっても行き詰ってしまうやろうから、交通整理を、ちょっと準備してもらわなあかんとか、いやそんなことはもう聞かないほうがいいよとかいう場合もあるかも分からないけれども、何かそういうことしたほうがいいんじゃないかなという気がしました。するならする、準備していたんですけども、これはやっぱり町に聞くことなんかなと、議員さんに聞くことじゃないのかなとかいうことを、やっぱりちょっと考えながら、やっぱりやめとこうかなというふうなことがありましたので、そういうことをしたほうがいいんじゃないかなということをちょっと感じました。

○委員長（馬場 哉） ご意見ありがとうございます。その点につきましては、質問事項の事前の打ち合わせ等がなかったということで、今後の反省材料といいますか、今後、やっていかなければならないことやなというふうに思います。よろしいですか、榎木委員。

○委員（榎木憲法） 以上です。

○委員長（馬場 哉） ほかに。今西委員。

○委員（今西利行） 今、まとめしていただいて、私もそのとおりでなというふうに思うんですけども、ハートフルな町ということで、それぞれ子育て支援とか、あるいは高齢者のとか福祉関係、あるいは産業関係、商工、農業というか、そういう形でやっておられると思うんですけども、私も事前にホームページ、ざっと見るんですが、ざっと読んだんですよ、もちろん、なかなか焦点が絞り切れなかったというか、幾つか質問も一応考えてはいたんですが、時間的にはかなり短い時間だったので、質問しなかったんですけども、大変いい取組だと思うので、そのあたり、焦点化するの難しいかもし

れない、ここに幾つか焦点が書いてありますけれども、何か、うまく言えないですけれども、焦点を絞るとか、もう少し焦点化されたら、こちらも質問もしやすいし、準備もできると思うんですけれども、そのあたり考えて、ちょっと一工夫すればより活性化するんじゃないかと思うんで、そこもちょっと考えたらどうかなというように思いました。

○委員長（馬場 哉） 今のご意見は、事前に質問したいところを、いわゆるある程度枠決めて、そこへ集中して協議をしていくみたいな、そういう方法も分かりやすいのではないかというご意見ですよ。今西委員。

○委員（今西利行） なかなか難しいと思いますけれどもね。

○委員長（馬場 哉） ほかにございませんでしょうか。森山委員。

○委員（森山高広） 過去2回は宇治田原町議会が主催ということでしたが、今後、このままずっといくのか、回していく感じになるのか、この辺、展望とかあれば。

○委員長（馬場 哉） 藤本委員。

○副委員長（藤本英樹） 委員長と副委員長で話もしていたんですけれども、今後、持ち回り制で、当番制でやっていったほうがより定着するんじゃないかなと思いますんで、その方向で調整して行っていきたいと思います。

以上です。

○委員長（馬場 哉） 森山委員。

○委員（森山高広） 分かりました。

○委員長（馬場 哉） よろしいですかね。

ほかに何かご意見は。山本委員。

○委員（山本 精） 一番最初に、これ始めるときに、ハートをとというようなことをやっている自治体、またハート型のことで選ばれたというか、探してこういう形で始まって行ったと思うんですけれども、拡大というのは考えているのかどうか、その辺はどうなんでしょうか。

○委員長（馬場 哉） これ以後の広がりですよ。山本委員。

○委員（山本 精） そうです。

○委員長（馬場 哉） それについては、ハートの形をした自治体議会ということで、事務局にも探していただいたんですが、なかなかないのが、行政レベルでないのが現状で、例えば、産業レベルの、商工会とか商工会議所でハートを観光PRに使うてはるところはあるんですが、行政の部分の最初の入り口がハートフルな自治体の施策というところに入っていますので、なかなか行政でハートの図形等々を活用した行政の取組をやって

はるところがこれ以上ないというか、もうあと1、2自治体があるぐらいで、ないのが現状なんです。山本委員。

○委員（山本 精） まだ何かちょっと、北のほうにもそういうところあるというように聞いたりもしていますので、だから、広げるのか広げないのかということでは、今後考えていくのかどうかやと思うんですけれども、あればやっついこうということではいんでしょうか。

○委員長（馬場 哉） ぜひとも、広げたいというふうには委員長、副委員長とも思っておりますので、ぜひ、山本委員のほうで、もしつながりあるようであれば探していただいて、お仲間がおられるのであれば、ちょっとそこら辺、調整をしていただけたらというふうに思います。藤本委員。

○副委員長（藤本英樹） ただ、あまり広げてしまうと、今度、逆に一堂に会するというのが難しくなると思うんです。今やったらそれこそ、兵庫県と京都とが4つあって、あと沖縄ちょっと遠いんですけれども、今ぐらいが、一番、逆に言うたら集まりやすいかなというメリットはあるんじゃないかなというふうには思います。

○委員長（馬場 哉） ほかに、何かご意見は。原田委員。

○委員（原田周一） 今、先ほど、森山委員で幹事の自治体を持ち回りするかどうかについて話をされましたが、私も、それには賛成やと思うんですが、それに関連して、山本委員が言われたように広げていくというのは、それぞれ当然、幹事になったところが考えてというのもあるでしょうし、それと過去2回見ていたら、私のところが、宇治田原町が主催というんですか、そういう幹事自治体になってやったものですから、うちの議員は当然、全員、参加させて、よそはたくさん来ているところ、あるいは委員会だけの代表のところ、いろんなところがあると思うんです、過去、見ていたら。

そういったことを考えると、やっぱり今回参加していただいた自治体で、やっぱり幹事を持たせることによって、やっぱり意識というのか、盛り上がりというのか、ということもあるん違うかなというあれは、感じはしました。

それともう一つは、自治体の形のハートを主体にやっていく、今、藤本副委員長が言われたように、一堂に会せるのが目的なんか、あるいはそうやって交流するのが、交流やったらウェブサミットやったら、北海道であろうが、どこであろうができるわけです。ウェブ主体でやっていくのであれば。だから、そのあたりがもう少し、今年参加された自治体でもうちょっと協議して、これからどういう形で進めていくのかということで、ちょっと討論というか、議論をされたらどうかなという気はします。

○委員長（馬場 哉） 藤本委員。

○副委員長（藤本英樹） 今、原田委員のおっしゃったことは、来年度のハートウォーミングWebサミットの中で議題に上げて、検討してもいいんじゃないかなと思いますんで。

○委員長（馬場 哉） 今、原田委員のほうからもお話ありましたけれども、もちろん広げるのは大事でありますけれども、基本的にスタートがハートの自治体を標榜するという自治体の集まりという枠組みでやっておりますので、おっしゃってくださったように、仮に北のほうにあるのであれば、現実的に一堂に会するのは大変ですけれども、ウェブサミットでつながりもできますし、また副委員長おっしゃるように、兵庫県とかやったら近くで集まることも可能なんで、いろんな、できる範囲のいろんなやり方を模索しながらというところで、来年度以降も考えていけばどうかなというふうに思います。

最後、浅田委員、少しお話をよろしくお願いします。

○委員（浅田晃弘） 当日は皆さん、ご苦労さんでございました。2回目ということで、Webサミットのほうも順調に、時間通りにいけたのではないかなと思っております。それと、新しく増えたところも、参加していただいたところもございましたし、そういうところとの交流等々も、これから深めていけるのかなと思います。

ただ、悲しいことに、自治体がやっぱり中心になって進められるように、議会としてはその後押ししていくという立場がございます。議会で例えばサミットを行いましょと、そういう声かけはできますんで、そういうことの中で一堂に皆さんの顔を見ながらお話できると。

今回、質問等もございましたし、例えば、顔を見ての話でしたら懇談会、普通は懇談会の中で話をするような内容で、質問ですね、こういうことをしてはるんですね、ちょっと教えてくださいなという、そういうような形でいけたらよかったですけれども、細かいところまではなかなかいけない。しかしながら、もうハートウォーミングのサミットで交流できていますんで、個々に言えばそこへ、議会事務局を通して問合せなりをしていただける体制はできていると思います。

だから、向こうの議会にこういう事業をしておられますけれども、ちょっと詳しく教えてくださいなっていうようなことで、問合せなり、また質問なり、ご教示いただけるかなと思いますので、そういう糸口をつくりましたんで、それを大事にさせていただけたらいいと思います。そのときにだけ質問して、そのときにだけじゃなくて、やはり今後どうしていくのかということ、議会間、参加していただいた議会間の中で、議員さん

の尽力によって、もっと深めていただきたいと思います。

できるだけ、やっぱりそういう意味からも門戸を広げて参加したいよというところがあれば、参加していただけたらいいと思いますし、遠いから行けないということでしたら、もうそれは仕方ないことですので、ただ、そういう縁を大事にしていきたいなと思います。その糸口になれるように、そして、自治体間同士が何らかの交流ができるように、そういう働きかけ、後押しをしていけたらいいかなと思っておりますので、よろしくお願いしたいなと思います。

取りあえず、1回皆さん、それぞれ顔を合わせて、話したいなと思っております。

以上です。

○委員長（馬場 哉） ほかにございませんでしょうか。

ただいま浅田委員のほうから、この機会をもって、議員間、また議会間のいわゆる交流を活発にしていってどうかという話がありましたので、それは皆さん、心に留めていただいて、もし何か気のつくような施策がそれぞれ交流した、今、議長もおっしゃいましたけれども、自治体にあるんやったら議会を通して交流して質問するなり、また、議員の勉強に当てるなり、そういう活動は積極的にやっていただきたいなというふうに思います。

この件につきまして終わりますけれども、ほかにご意見ございませんか。

（発言する者なし）

○委員長（馬場 哉） 来年度も引き続き、このいわゆる取組については進めていくということで、議会活性化特別委員会でいろんなことを探りながら考えていきたいなというふうに思っています。

以上で、この件については終わらせていただきます。

続きまして、日程第2、その他についてを議題といたします。

私のほうから、来年度の中学生議会について少し話をさせていただきたいと思います。

中学生議会については、前回の中で反省をさせていただいて、それ以降、中学生のほうからのアンケートの答え等々が返ってまいりました。

そのアンケートを分析しますと、もう少し活発な意見交換をしたかったという、そういう意見もあったので、そこをどういうふうにすればよいかと、委員長、副委員長、また事務局ともに考えていたんですけれども、もし可能であるならば、委員会形式、こういうところで一度、中学生に来ていただいて、打合せというか、こういうすり合わせをした中で、中学生の質問の趣旨なんかをまとめていくような打合せ会みたいなものが



できれば、中学生の子どもたちにも事前に質問の整理ができるのではないかという意見がありましたので、それを中学校のほうにお伝えをして、可能かどうかを、また考えていきたいなというふうに思っています。

その可能な対象が3年生になるのか、また2年生になるのか、また時期はどうかについては、正副委員長にお任せをいただいて、中学生とのいわゆる調整を図っていききたいというふうに考えています。

また、そういう委員会形式の打合せの機会ができるようであれば、もちろん中学生は日頃、勉強していますので、議員の方々には放課後である夕方に少し集まっていたかないかと、そういう機会もあるかもしれませんので、その件だけはご了承いただきたいなというふうに思います。

以上で、来年度の中学生議会につきましても、私のほうから一応、整理という形で報告はさせていただきますけれども、進めていくのか、いかないか、その是非含めて、何かご意見があれば、この機会に頂戴したいと思います。原田委員。

○委員（原田周一） 私はせっかくやって、中身は別にして、少しでも興味を持ってもらうという意味ではいいことやというふうには思っているんです。ただ、ここ2回ですか、見ていまして、やっぱりいろいろ意見が出ていたように、質問の仕方が今回なんか特に、全般、後で見せていただいたら、ほとんど箇条書きということですよ。だから、そこが出てきた段階で、やっぱりきちっと、そのすり合わせとか、的を絞ってとかという努力は必要なんじゃないかと。

そうなると、中学生のほうも、やっぱり時期というのがあって、試験前とか、入試前とか、というようなことになると、そういう時間も取れないということがあるので、その辺含めて、やっぱりちょっと考えていかなあかんと違うかなと。

だから、私はできる限り続けていったほうがいいとは思いますがけれども、その今言うたようなやり方を、やっぱり十分検証せんといかんと違うかなという気がします。

○委員長（馬場 哉） ご意見ありがとうございます。

私のほうの先ほどの報告の中で、委員会形式と言いましたけれども、あくまでも委員会形式で対面でやるのは質問の打合せの機会を中学生と持つということで、基本的には議場で、今回行いましたように中学生からの質問があれば議員が答えてという、前回の話合いの中で、質問に対しての答弁のすり合わせができていないという、対面ですり合わせができていないという反省がありましたので、事前にそのすり合わせの機会を、こういう委員会に中学生に来ていただいて、どこを聞きたいのかということも含めて、少

しそういう機会が持てると、質問と答弁なんかもスムーズにいけるのではないかというふうに考えておりますので、そういう方向で続けていけるものであれば、ぜひ引き続き検討していきたいなというふうに考えているところです。原田委員。

○委員（原田周一） 結果同じことだと思うんですけども、今、委員長が言われたようなやり方ですと、極端な話、ここへ来てもらって、時間を割いて打合せしてというようなことですよ、2回、3回。だから、中学生にそういう時間があるのかどうかということが1つあります。だから、それでしたら、事前に質問が出てきた段階で、やっぱりきっちり議会活性化特別委員会の正副委員長などが中心で、中学校へ出て行って、それで短時間ですり合わせするというほうがええんと違うかなと。ここでやると、またその日とって、また本会議でという2回も3回も、極端な話、時間を取るということも考えられるんで、どうかなと思いますけれども。

○委員長（馬場 哉） 藤本委員。

○副委員長（藤本英樹） すり合わせというても、2回も、3回もというふうには、こっちも考えていませんし、1回、どういう質問をされるのか、書面で見せてもろうて、それを僕らが見て、またそれに対してこういうふうな質問のほうがいいですよとアドバイスを1回、対面でもアドバイスするような機会を設けても、もうちょっと質問が具体化できるんじゃないかなというふうに思ったりしています。

○委員長（馬場 哉） 原田委員。

○委員（原田周一） いやだから、今の話やったら、別にここでやらなくっても、中学校に出ていってもいいわけでしょう、今の話であればね。だから、そういう意味で、ここへ来てもらうというたら、やっぱり移動を含めて拘束時間というのが結構長いんで、結局、過去、見ていたら、どっちか言えば時間的なもので質問者が少ないとかいうこともあったんと違うかなという感じはしますんで、そのあたりを考えると、ちょっとやり方を考えないかんのと違うかなという気はしています。

○委員長（馬場 哉） 藤本委員。

○副委員長（藤本英樹） そうしたら、先に、早いこと質問をいただいて、答弁者を先に決めてしまって、その決めてしまった答弁者と質問者で、ここで打合せしてもいいですし、学校に行って打合せしてもいいですし、そういうことを事前に設けて、1つの質問と答弁というふうにつくっていったほうがきれいになると思いますんで、そういう方向で、ちょっと委員長と考えながら進めたいと思います。

○委員長（馬場 哉） ほかに。山内委員。

○委員（山内実貴子） 今言わはった答弁者を決めてとかいうことになる、議会としてというところが何かちょっとどうかなというところもあるので、その辺は学校とも時間の関係もあるので、十分話をしていただいた中で、一番いい方法でやればいいのかという部分で、その答弁者が1人ずつがそうやってというのはちょっと難しいというか、どうかなというのは思いました。

○委員長（馬場 哉） 暫時休憩します。ちょっと皆さんのフリーな意見を。

暫時休憩します。

休 憩 午前11時42分

再 開 午前11時53分

○委員長（馬場 哉） それでは、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

山内委員のほうから忙しい中学生の方々に配慮しながらも、議会としてしっかりこの取組をいろんな可能性を持って進めていったらどうかという話がありましたので、いろんな部分は正副委員長、また事務局にお任せいただいて、少し早い目に中学校のほうにお話を届けて、スムーズに開催ができるように、来年度以降も考えていきたいなというふうに考えております。

以上で、この件につきましては終わります。

それから、ほかに日程第2、その他についてほかにございませつか。上野委員。

○委員（上野雅央） 私が以前、立候補したときの公約的なもので掲げていた議員定数について、ちょっと皆さんで考えていただきたい。言うのも、議会活性化にもなってくる話でありまして、前回、先ほど言われた無投票であったように、議員の成り手不足とか、全国的な地方議員の成り手不足とかもあつたり、それとか住民の方々のご意見を聞いていると、ちょっと今の議員定数では多いのではないかと、そういうふうな声も聞いたりもしている中で、一度、この議会活性化特別委員会でご協議願えたらといいかなと思ひまして、ちょっと提案させていただきました。

○委員長（馬場 哉） ただいま上野委員より、議員定数について少し議員間で話をひいていったらどうかというご提案ございました。現状、それについて、今すぐ何かご意見ございますか。原田委員。

○委員（原田周一） 私は逆に、減らすより増やすという意見なんです。なぜか言うたら、皆さん、議員になって分かると思うんですけども、今でも5人、6人の委員会なんです。本来、大体、いろんな質疑をするのに数が多いほうが当然、いろんな意見が出てくるわけですから。やっぱり一般の住民さんの立場から言えば、まずやっぱり給料を減ら

す、議員の数を減らすと、もうこしかない。ただそれを、そうですかということ聞いてるんじゃないで、逆にそういう声があれば、やっぱり今でも議会で、委員会でこんななんなんですよと、総務建設常任委員会を6人、文教厚生常任委員会を6人でやって、委員長、副委員長やって、あと4人しかいないのですよ、そういう意味では。そういう委員会でも良いのかどうか。それを現実、やっぱりよくかみしめて、やっぱり逆に説明して、多いんじゃないで、減らすんじゃないで、増やさなければと思ってますぐらいの、私は意見を言うてほしいなという気はします。

○委員長（馬場 哉） 浅田委員。

○委員（浅田晃弘） 今、言うておられるみたいに、減らす、増やす、そういう議論が欲しいと思います。そういうことで、議会が活性化してくると思いますんで、減らす方の意見、また増やす方の意見、そういういろいろなご意見をいただく中で、活性化していくべきだと思いますんで、良い提案をしてくれたなと喜んでます。それで、する、しないは別にしても、そういう議論を深めていくのがいいのかなと思ってますんで、ひとつ議題に挙げていただいて、1回誰か、議会運営委員会の委員さんが提案していただいて、議会運営委員会で議会活性化特別委員会でやってくれというようなことで諮問していく、そういうふうな形で、全員でやっていけば良いと思います。ただ、先ほど原田委員が言うておられたように委員会は小さくなるけれども、それを少ないところでしたら、全員が、全議員が委員になって、毎回、全員ですするという方法もございますし、そういうことも、これはいいという方法にもつながるかもしれへんし。

議員を増やすというのはなかなかできないかもしれないが、そういうことも踏まえて、委員の数は増やすことはできるのではないかと思いますんで。そういうことも、やっている議会もございまして、小さいところは、全員でやらないと、それこそ2人、3人の委員会になってきますんで、そういうところもあると聞いてますんで、そういうことも頭に入れて、いろいろ勉強していただく中で、議論を深めていけたらなと思いますんで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○委員長（馬場 哉） 今、上野委員、それから原田委員、浅田委員にご意見を頂戴しました。この機会に、上野委員のほうから考えていったらどうかということで、議会活性化特別委員会としてお預かりしましたので、そういう声が上がってきたということを議会運営委員会のほうに報告をいたしまして、また、議会運営委員会の山内委員長のほうから、また議会活性化特別委員会に戻していただいて、全員でいろんな研究、また話し合いをするとか、そこら辺は議会運営委員会の委員長が少し検討いただけたらなというふ

うに思っています。それで上野さんよろしいでしょうか。上野委員。

○委員（上野雅央） そういうふうな提案をしましたもので、皆様のご協議のほどよろしくお願いいたします。

○委員長（馬場 哉） 浅田委員。

○委員（浅田晃弘） よろしいか、ほかで。

○委員長（馬場 哉） どうぞ。

○委員（浅田晃弘） その他について、1つ、住民の方から、今、動画配信していますよね。録画した上で動画配信していますけれども、そのことについて……

○委員長（馬場 哉） 一般質問の動画配信。

○委員（浅田晃弘） それしかしていないんで、ほかはしていないんで、前からは委員会もしたらええのんと違うかとか、いろいろ出ていましたけれども、カメラ等ございませんので、委員会はなかなかできないなというふうなことやったんですけれども、動画のそういう録画をしているのをライブ配信できないかみたいなことで、電話があったようです。その件について、また、回答してくれるかみたいな話やったそうなので、皆さん方の意見をお聞きした上で、いきたいなと思うんですけれども、何かございましたら、ちょっと、委員長が仕切ってもらって、お話聞いてもらえますか。

○委員長（馬場 哉） 今、浅田委員のほうから一般質問のライブ配信については、現状、ずっとユーチューブで動画配信をしています。それで、住民さんのほうから、委員会も録画配信を……

（発言する者あり）

○委員長（馬場 哉） 一般質問のライブ配信を言うてはるんですか。浅田委員。

○委員（浅田晃弘） 今やっている録画配信をライブ配信にしていだけないかなという要望を聞いたようで、議会としてはどのように考えているんやということなんで、皆さんのご意見をお聞きしたいということなんです。

○委員長（馬場 哉） ちょっと、すみません、私、預かります。

それはもちろん、そういう住民さんの方からご意見を頂戴するのはありがたいんですけれども、技術的な問題がありますんで、それが現状できるかについては、少し……、原田委員。

○委員（原田周一） 今、ユーチューブでやって、当初、我々もしょっちゅう見ているわけじゃないんですけれども、意外と今の動画にアップしていただいているのは、かなり一般質問終わってから、早い機会に上げてもらうように、私は受けているんです。

だから、今、それ局長に確認したいんですけども、何日ぐらいで上げてはるのか、一般質問終わってから。

○委員長（馬場 哉） 矢野局長。

○事務局長（矢野里志） この間の一般質問につきましては、もう昨日の夜、今日の朝に出て上がっていますので、もう見られるような形で、基本は1週間以内ということだと思っていただんですけども、できるだけ素早くは上げるようにしてまして、この間の定例会の分については、もう今、ユーチューブで3回に分けて見られるような状況です。

○委員長（馬場 哉） 原田委員。

○委員（原田周一） ということは、極端に言うと、今のライブ配信をしたところで、どんなメリットがあんのかなと、どんな差があんのかなと。要は、実況中継ということですよ。それに対して、例えば、ハートウォーミング自治体議会Webサミットみたいなお互いにやり取りができるんやったら、そういうことも必要なんでしょうけれども、実際、そうじゃないんで、私ははっきり言うて、ライブにする必要がないというふうに思うんですけども。

○委員長（馬場 哉） 榎木委員。

○委員（榎木憲法） 私も実は浅田委員がおっしゃったようなことを言われているんです。というのは、洛タイ新報なんかで質問事項が出ますよね、興味を持っているから、その場で見たい、聞きたいと、録画、まだ見られへんのかという意見がありまして、実はまだできないんやと、浅田委員が言われたようなことを私も言われて聞いています。そういうことの声もありますよ。やっぱり、質問のテーマを見て、すぐ聞きたいなと思っているのになというような人がおられました。

以上です。

（「来てもろうたらええんか」と呼ぶ者あり）

○委員長（馬場 哉） 山内委員。

○委員（山内実貴子） そうですね、来ていただくのも一つですし、ほんまにやっている日に見てくれはるというのは、それはもちろんすごいことやなと思うんですけども、その労力に対してどれぐらい見てくれはるかなというところがあるんですけども、それは、もうそういうことが1人でもあればやっていくのか、どうなのかというところですかね。

○委員長（馬場 哉） 技術的なことがあると思う。

暫時休憩します。

休 憩 午後 0時06分

再 開 午後 0時14分

○委員長（馬場 哉） 休憩前に引き続き会議を再開いたします。

今、事務局のほうからライブ配信については、技術的な問題の中で、機材の問題、それから人員配置の問題で、ちょっと現状は厳しいかなという声がありましたけれども、住民さんのほうからそうやってお声をいただいている限りは、もちろん動画配信につきましても編集はしていないということを適切に、お問合せいただいた住民さんにはお知らせをして、また議会広報においてもそういうお話、また一般質問の動画配信についてはスピーディーに、翌日に上げるように努力していますという、そういうふうな趣旨で、広報でも紹介していただいたらなというふうに考えます。

この件、以上でよろしいでしょうか。浅田委員。

○委員（浅田晃弘） いろいろ意見いただきましたんで、現状はさっき委員長が締めていただいたような内容やと思います。ただ、そういう意見もあるし、またやってほしいよという榎木委員さんのほうからも出ていましたんで、こういうのも議会活性化の一つですよね、この委員会室にも委員会の様子をしていきたいということも一つの材料になりますんで、そういうことも踏まえて、予算要望もしていかな、職員の数も何とかしてくれよというようなことも含めて、いろいろな意見あると思いますので、またこの1年ぐらいかけて、ここの議会活性化特別委員会の中でも議題の一つに挙げていただけたらいいのかなと思います。できる、できないじゃなくて、議論しているか、してないかというのも大事になってきますんで、お願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いします。

○委員長（馬場 哉） 山本委員。

○委員（山本 精） 今のこの動画配信に対してのちょっと聞いている意見なんですけれども、字幕をつけてほしいという意見があるんです。見えない方も含めて、おられるんで、そこのところは確かにちょっと技術的な問題あると思うんですけれども、少し、遅れてもいいですし、そんなことも考えてもらえんかなと思いますけれども、この場所で。

○委員長（馬場 哉） 今、山本委員の方から録画配信についての字幕、いわゆるテロップですよね、下に字幕、テロップ。技術的に少し、矢野局長のほうから。

○事務局長（矢野里志） ユーチューブで録画配信をさせていただいているんですけれども、ユーチューブの機能で字幕が出るように今なっています。言葉の方言とか、イントネーションで若干違うと思うんですけれども、大体はその音声そのままずらっと字幕に出てくるようなユーチューブの機能がありますので、それをオンにいただければ、

大体趣旨は出てくるかなというふうに思います。

(「そういう機能がありますと、ユーチューブ自体に」と呼ぶ者あり)

○委員長(馬場 哉) ユーチューブに字幕を出す機能があるんですね。

矢野局長。

○事務局長(矢野里志) はい。

(「とんちんかんになったりする場合がありますけれども」「変に途切れたり  
するとか」と呼ぶ者あり)

○委員長(馬場 哉) AIがやっていることなので、そこら辺はもちろん、いろんな。  
よろしいですか、山本委員。

○委員(山本 精) 分かりました。

○委員長(馬場 哉) 原田委員。

○委員(原田周一) ちょっと議長のお話に関連してなんですけれども、録画云々とか、  
ライブのそれはそれであれなんですけれども、私はそれと並行して、逆に、ペーパーレ  
ス化が進んでいるので、タブレットを議員の、今はもう例規集もなくなってきたことや  
し、やっぱり議場、委員会、議案、そういうのを今回でも相当な数ですよ。だから、  
やっぱりそっちのほうを並行して検討していただけたらということで、ちょっと関連で  
申し訳ないですけれども。

○委員長(馬場 哉) 今、原田委員のほうから議員のいわゆる資料をタブレット化であ  
りますとか、また、職員さん、当局のほうも今、パソコンを持って入ってはいけないと  
いうそういう規定になっていますので、そこら辺も議会活性化特別委員会の中で協議し  
ていったらどうかという、以前からも話が上がっていたものなので、引き続き協議をし  
ていきたいというふうに思っています。

ほかに、何かございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○委員長(馬場 哉) ないようでしたら、これにて議会活性化特別委員会を終  
わります。

本日はご苦労さまでした。

閉 会 午後 0時20分



宇治田原町議会委員会条例第26条の規定によりここに署名する。

議会活性化特別委員会委員長                      馬      場                      哉